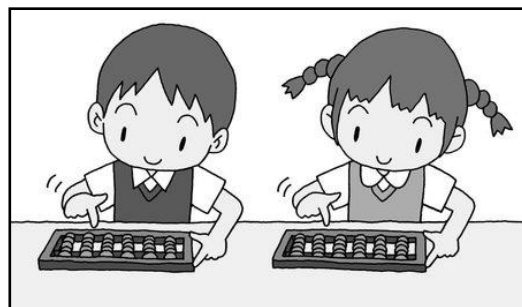


***ウェブサイト「いこーよ 子供とお出かけ情報」からの抜粋記事です。

計算力と右脳が育つ！ 習い事で再び人気の「そろばん」の効果

昔ながらの習い事「そろばん」。計算力アップだけでなく、脳のトレーニングにもよいといわれ、再び注目されているようです。そこで、日本珠算連盟のベテラン講師に、子どもがそろばんを習うと、どのような能力アップが期待できるのか聞いてみました。



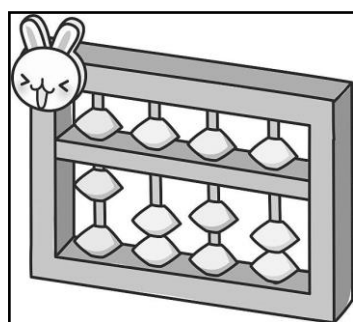
■紙での計算と「そろばん」での計算では、何が違う？

「紙で計算する『筆算』は、1の位から計算するのが普通です。筆算は学校で習う算数のベースとなるものですから、きちんと習得する必要があります。これに対して『そろばん』は、数字を読み上げる順番、つまり上の位からそろばん玉を弾きながら計算します」

筆算とそろばんとは計算の方法が違う、ということになります。そろばんは指先を使うことから、「脳全体」がさらに鍛えられるのが大きな特徴です。

■「頭の中のそろばん」を使うことが右脳に良い!?

そろばんといえば「暗算に強くなる」イメージもありますが、その理由はなぜでしょうか？



「『珠算式暗算』は“頭の中のそろばん”を使って計算する方法で、小さい頃からそろばんを習っている子どもは、『3』という数字を聞けば、頭の中にそろばん玉が3つが浮かんでくるんです。このような脳内の直感像記憶は右脳を使っているといわれています。頭の中のそろばんが数字処理ができるようになれば、2桁の掛け算もあっという間に解けるようになります。対して筆算を頭の中で行う『算数式暗算』

は左脳を使って計算しているといわれています。」

そろばんを指ではじく計算方法では脳全体が育ち、頭の中のそろばんを使う珠算式暗算では右脳が鍛えられる、というわけですね。

計算力はモチロンですが、いろいろな場面で必要とされる‘集中力’を養うことは、大切なスキルです。例えば、そろばん7分間・あんざん3分間のあいだは、他のことは一切考えず問題に取り組むことだけに全神経を傾けることを繰り返すことにより、目には見えない精神力が確実に養われていきます。